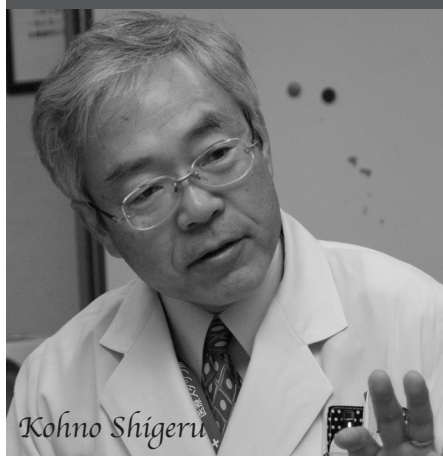


## 気軽に利用できる情報源目指して

第2回のテーマは「地域医療との連携」。長崎大学病院だからこそできる地域医療への貢献や開業医の先生方との協力体制は？ 河野病院長が長崎大学病院で医療連携に関わる2人の医師と医療ソーシャルワーカーに話を聞きました。

病院長

河野 茂氏



Kohno Shigeru

こうの・しげる  
1950年生まれ。  
長崎大学医学部  
卒。専門は呼吸  
器内科学。2009  
年4月より長崎  
大学病院長

### あじさいネットで最新の情報を還元

**河野氏** これからの大学病院は地域とどう連携するのかということが大切になってきます。これは今から最も力を入れる面の一つです。開業医の先生方と結びつきを強めるためにも患者さんの情報の共有は欠かせません。昨年「あじさいネット」を大学病院でも運用し始めましたが。

**松本氏** あじさいネットは診療所の先生方が自由に病院のカルテ情報を閲覧できるサービスです。現在、同意をもらった1万人の患者さんが登録されており、120の診療所や病院からの利用が可能です。

例えば、開業医の先生のところに初診の患者さんが受診した際、採血や放射線の検査結果、服薬情報や禁忌・アレルギー情報、退院サマリなどがすぐに利用できるのです。自らの診療に役立てられます。大学病院はもちろん長崎市民病院や原爆病院も参加していますが、このように医療圏の大規模な公的病

院がすべて参加するのは全国でも珍しいケースなので、今では県外からの視察も増えています。

**河野氏** 病院にはそれぞれ役割や機能があり、大学病院は教育をはじめ、高度医療などの役割を担っています。その大学病院とカルテを共有するメリットは何だと考えますか？

**松本氏** 大学病院には最新の医療の知識や技術、診断法、治療法などが豊富にありますので、それを地域にフィードバックできるかが求められていると思います。あじさいネットを利用すれば、日進月歩の医療の中、開業医ご自身が紹介してくれた患者さんのカルテを通して、最新の医療の内容を知り、学ぶことが可能となりました。

開業されると、お忙しいあまり最新の医療技術や情報に触れる機会が減ってくるとお聞きしています。あじさいネットのヘビーユーザーの中には、勉強ができると喜ばれている方もおられます。

医療情報部副部長

松本 武浩氏



Mastumoto Takahiro

まつもと・たけひろ  
1962年生まれ。長  
崎大学医学部卒。専  
門は消化器内科（肝  
疾患）。2005年11  
月より長崎大学病院  
医療情報部副部長

**河野氏** 大学病院は敷居を下げて、本来担うべき新しい医療などの機能を開業医の先生方に十分に役立ててもらおうと変わらないといけませんね。

**川崎氏** 大学病院のデータを開業医の先生方が把握されると、患者さんは安心しますよね。

**松本氏** 利用されている先生方の中には病院に紹介

した患者さんの診療経過をあじさいネットで十分に把握してから、お見舞いに来られる方もおられるそうです。患者さんは大変喜ばれるでしょうね。

**河野氏** 今後、大学病院として、あじさいネットの充実をどう考えますか？

**松本氏** 大学病院の放射線科と協力することで、ダブルチェックと画像診断の専門分化対応を前提とした、より精度の高い遠隔画像診断をあじさいネット上で実現したいですね。

**河野氏** なるほど。画像診断の精度を上げることは必要ですね。将来の課題として取り組んでいかないとはいけませんね。

### よりスピーディーな対応

**河野氏** 大学病院はひと昔前までは敷居が高くてふんぞり返っていたので、「地域医療連携」と口先だけじゃないのかと思われているかもしれませんが(笑)。川崎先生、地域医療連携センターの役割はどう変わりましたか？

 <p>Kawasaki Ko</p>	<p><b>地域医療連携センター副センター長 川崎 浩二氏</b></p> <p>かわさき・こうじ 1956年生まれ。新潟大学歯学部卒。専門は予防歯科学。2003年より長崎大学病院地域医療連携センター副センター長。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------


**川崎氏** これまで大学病院は患者さんの待ち時間が長いとか、「担当の先生がいないから後日来てください」と平気で言っていました。考えられないことですよね。(笑)

平成18年からファックスで初診の患者さんの予約を受け付けられるようになり、最近はより簡単にスピーディーになったので、大幅に患者さんの待ち時間が減りました。開業医にとっては紹介の窓口が一本化され、負担も減ったと聞いております。

**松本氏** 始めた当初は42大学の中で3割程度でし

たけど、最近では随分増えましたね。

**川崎氏** 入院患者さんが退院する際には後方連携というサポートがあります。今、国は在宅医療を進めているため、医療だけではなく、生活、福祉の部分も一緒に生活環境を整えるためのサポートをしないといけなくなりました。

 <p>Mukouda Keisuke</p>	<p><b>医療ソーシャルワーカー 向田 圭介氏</b></p> <p>むこうだ・けいすけ 1970年生まれ。青森大学社会学部社会福祉科卒。2004年8月より長崎大学病院地域医療連携センター勤務。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**向田氏** 私は、患者さんの生活の質を維持して福祉的な分野で社会制度を活用しながら支援しています。患者さんが大学病院の高度医療を受けるとき、医療に対する不安がまずあって、その後には生活のことへと不安が移っていきます。開業医の先生方と意見を交換しながら、積極的に役立つ情報を提供していきたいと思います。

**川崎氏** 大学病院では退院前に主治医や看護師、センターのスタッフ、訪問看護師ら在宅医療にかかわる皆さんに集ってもらい、患者さんやその家族たちと最終的な打ち合わせをします。平成20年度で86件でしたが、平成21年度は12月までで105件と増えていますね。

**松本氏** 長崎には全国から注目されている「長崎在宅Dr. ネット」があるので、ほかの地区よりはるかに質の高い在宅医療への支援が可能だと思います。大学病院と開業医の連携モデルとして、全国にアピールできるはずですよ。

**河野氏** スピーディーに手厚くフォローできるシステムがうまく機能すれば、患者さんにとっても大いにメリットがありますね。大学病院は人材も情報も豊富ですので、開業医の先生方には今まで以上に大学病院を使いこなしていただきたいですね。